

●	●
近畿部会準備会の発足と活動	
●	●

近畿部会あるいは関西部会の結成については以前からところどころで声はあがっていたが、近畿に文書館的機関がそろっていないところから、現在においてもまだ果たされていない。しかしいくつかの(公)文書館・資料館にくわえて文書館の働きもかねる類似機関や係は存在しており、その中で働く史料取扱者も少なくない。むしろ文書館としてきちんと位置づけができていないからこそ、情報の交換が必要なのにその場がないのである。

1988年9月、国立史料館主催の史料管理学研修会(大阪会場)の受講者から関西部会の発足を促したいと意見がでて、これに同意する小さな話し合いがはじまった。1989年4月15日、阪神地区の公共団体に勤める歴史資料取扱者の有志17人が情報交換・研究の場をつくるために集まり、近畿2府4県の同じような取扱担当者にアンケートを発送した。

この意見をもとにして新会を発足させようと7月8日大阪府公文書館に近畿地区から40人が参集した。この席には安澤秀一氏(国立史料館)安藤正人氏(同)水口政次氏(東京都公文書館)が応援に来てくださった。ここでも、先進機関である全史料協の近畿部会として設立したいと望む声が多かったが、参加者のなかには全史料協に加入していない機関の人もいるので、名称を全史料協近畿部会準備会とし、さらに多くの人たちにも働きかけながら、研究会等の活動を始めることになった。

正式の近畿部会については全史料協の近畿地区機関会員が中心となって結成を呼びかけてもらうようお願いしている。したがって本準備会がそのまま近畿部会へと発展していくのではなく、近畿部会設立までの活動の場として機能するものである。ただし、会員の中には、近畿部会の必要性は感じているが、全

史料協までは入れない機関もあり、部会だけにでも加入できることを望んでいる。

本準備会では、目的と趣旨として、①全史料協近畿部会の設立 ②歴史的文書の収集・整理・保存・利用の方法の研究と情報の交換 ③専門職(アーキビスト)の地位向上のための活動の三つをあげている。

これまでの研究会等はつぎのとおりである。

## 《1989年》

- ・7月8日 第1回研究会「史料管理学と記録管理学」安澤秀一氏(国立史料館)於：大阪府公文書館 参加者40名
- ・9月30日 第2回研究会「公文書の整理と保存—大阪府公文書館の場合—」大西愛(大阪府公文書館)於：大阪府公文書館 参加者21名
- ・10月30日 第1回図書講読会『地域文書館の設立に向けて』(埼玉県市町村史編さん連絡協議会編)於：大阪市立北区民教養ルーム
- ・11月17日 第3回研究会「行政資料の保存と文書館の建設に向けて」南富治氏(箕面市総務課)於：箕面市職員会館 参加者17名
- ・12月21日 第2回図書講読会 於：大阪府立文化情報センター 図書は同前

## 《1990年》

- ・2月17日 第3回図書講読会 於：大阪府公文書館 図書は同前
- ・2月18日 和歌山地方史研究会主催シンポジウム「文書館・公文書館について考える」於：和歌山市民会館 近畿部会準備会より9名参加
- ・2月24日 第4回研究会「羽曳野市史編纂における近世文書の整理について—森田家・矢野家・塩野家文書の場合—」中田佳子・浅田益美氏(羽曳野市史編纂室)於：羽曳野市役所市長会議室 参加者 14名
- ・4月27日 大阪府法制文書課主催講演会「明日への遺産—公文書保存の重要性を考える—」講師 国立史料館安藤正人氏 於：大阪府庁別館 近畿部会準備会と府下市町村より67名参加
- ・5月25日 第4回図書講読会 於：西宮市教育会館 図書は同前
- ・6月16日 第5回研究会「関西大学の近世文書目録作成について」藤原有和氏(関西大学図書館・古文書担当) 於：関西大学図書館第一会議室 参加者 22名

なお、近畿部会準備会の連絡先は、〒558 大阪市住吉区帝塚山東2-1-44 大阪府公文書館(Tel 06-675-5551 大西)である。

大西 愛・大阪府公文書館